

Ⅲ. 分担研究報告 1

厚生労働行政推進調査事業費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業 令和 5 年度分担研究報告書 健診及び結果説明、形態学的評価

研究分担者 齋藤 貴徳 関西医科大学整形外科学講座 教授

研究要旨

令和 5 年度の健診について報告する。当施設は本年度からサリドマイド胎芽症を対象とする人間ドック健診を開始した。令和 5 年 4 月から健診実施に向けた準備を開始し、年度後半から受診希望者を受け入れた。受診者数は 5 名で、男性 2 名、女性 3 名、平均年齢 61.2 才であった。

研究結果

1. 上部消化管内視鏡検査を 4 名に実施した。検査に伴う合併症は認めなかった。胃がんをはじめとする悪性腫瘍は認めなかった。1 名にびらん性胃炎と食道裂肛ヘルニア、1 名に萎縮性胃炎と軽度の逆流性食道炎、1 名に表層性胃炎とポリープを認めた。1 名は異常所見を認めなかった。

2. 頭部・体幹部 CT を全例で実施した。1 名に子宮筋腫疑い、1 名に肺の小結節および肝腫瘍（血管腫疑い）が見られ、呼吸器科、消化器科での精査を推奨した。1 名に脂肪肝および婦人科で経過観察中の膣腫瘍を認めた。1 名に甲状腺腫瘍が確認され精査を推奨した。1 名に冠動脈石灰化を認めた。

3. 頸椎・胸椎 MRI を全例で施行し、うち 1 名はレントゲン検査、4 名は MRI 検査を実施した。1 名は X 線検査で加齢性変化を認めた。1 名は MRI で頸椎融合椎を認めた。1 名は MRI で C6/7 左側に軽度椎間板の膨隆、L3/4 で硬膜管圧迫を認めた。1 名は MRI で軽度脊柱管狭窄、Th11/12 後縦靭帯肥厚を認めた。1 名は MRI で異常所見を認めなかった。

4. 腹部超音波検査では 5 名中 3 名に脂肪肝を認めた。その他、1 名に軽度脾腫、1 名に肝腫瘍および胆のうポリープ、1 名に両側腎のう胞、1 名に肝内結石および胆のうポリープ、1 名に左腎のう胞を認めた。

無胆嚢症や腫瘍性病変は認めなかった。

5. 骨密度検査は 5 名に施行し、女性 1 名で腰椎 YAM 値が 77% と標準より低値であった。

6. 生活習慣病関連の検査では、1 名で BMI が 25% 以上、男性 1 名、女性 1 名でそれぞれ腹囲が基準値以上であった。中性脂肪は 2 名で 150 mg/dL 以上、LDL コレステロールは 1 名で 140 mg/dL 以上であった。HDL コレステロールが 40 mg/dL 未満の者はいなかった。1 名が糖尿病と診断され内科受診を推奨した。1 名が空腹時血糖 110 以上であった。

7. 整形外科的診察では、1 名で先天性の両上肢の変形、欠損、伸展障害があり、さらに頸椎症性神経根症、右変形性股関節症、腰部脊柱管狭窄症、胸椎黄色靭帯骨化を認め経過観察が必要であった。1 名でサリドマイド特有の運動器障害が見られなかった。1 名で頸椎融合椎と軽度側弯を認めたが臨床症状はなかった。2 名で大きな問題を認めなかった。

考察

例数が少ないため統計的な解析は困難であるが、サリドマイド患者では脂肪肝の頻度が高いと考えられた。脊椎の加齢性変化を含む整形外科的所見が見られる症例が多く、経過観察が必要であると考えられた。